

## バリューチェーン全体での課題解決と未来に向けた価値創造

### 資源循環に対する取り組み

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みによって支えられています。事業活動が地球環境に与える影響を配慮し、将来にわたってより良い地球環境を引き継いでいく使命があると考えています。

この考えのもと、1950年代にはマヨネーズを製造した後に残る卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始しました。現在は卵を100%有効活用しながら、さらなる付加価値向上への取り組みを続けています。またパッケージサラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の外葉や芯などの未利用部の有効活用では飼料・堆肥化に取り組んでいます。

資源の有効活用の取り組みはさらなる進化を遂げ、下記のような循環プロセスを構築できました。バリューチェーン全体での経済性と社会性の両立を実現したいと考えています。

#### 卵の循環プロセス

キューピーグループでは、マヨネーズやタマゴ商品などの製造にともなって年間約2万8千tの卵殻が発生しています。これまで、土壌改良材や、壁紙、コースターなどの原料として、様々なものに有効活用してきました。卵殻カルシウムがヒトの骨量を増加させることから、日本で食品素材として販売してきました。この活動を海外にも広げ、ベトナムでも栄養強化食品として商品化しています。また、卵殻のさらなる用途拡大をめざし、鶏卵業者との協働により、鶏に飼料として与えることで殻の強度が増し、納品時の割れが少なくなることがわかっています。



#### 野菜の循環プロセス

株式会社サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場が発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただいています。この取り組みにより、処理委託費用が発生していたものに価値を付与することができました。農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を最小限にできるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って野菜を栽培し、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築することができました。



#### VOICE

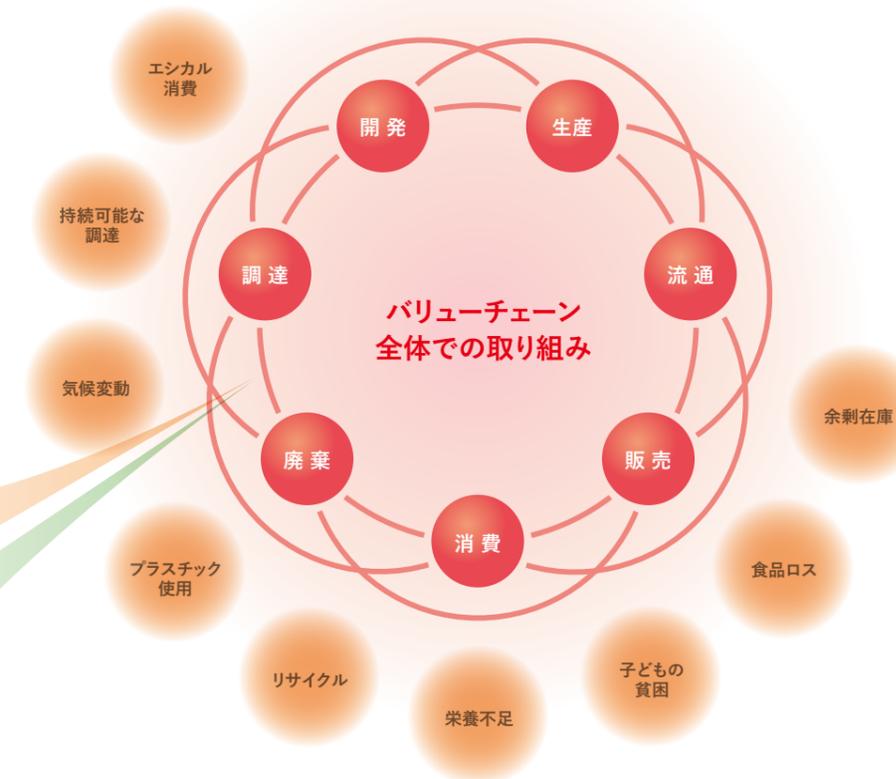


株式会社青空農園  
代表取締役 大西 辰幸 氏

可能な限り化学肥料の使用量を少なくすることで、環境に配慮し、より体に良い野菜づくりを心がけています。野菜未利用部を活用した堆肥によって、土中の微生物が増え、少量の肥料でもしっかりと野菜が生育するようになりました。元気で体に優しく環境にも配慮した野菜づくりが実現できており、非常に助かっています。

### バリューチェーン全体での取り組みを推進

原資材の調達から、製造・流通、消費までの食料供給の一連の流れのバリューチェーンには気候変動や食品ロス、プラスチック問題、貧困や栄養不良など、地球環境、社会、経済領域での様々な課題が複雑に関わり、作用し合いながら存在しています。これらの課題解決には、バリューチェーンそのものの構造を見直す必要があり、パートナーとともに取り組んでいきます。今後も有効活用事例を循環プロセスの構築へと進化させ、リーダーシップを発揮し、次世代へより良い未来を作り出していきます。



#### VOICE



キューピー株式会社  
経営推進本部  
加藤 豊美

バリューチェーン全体の取り組みはとても高く、大きな目標ですが、パートナーの皆様とともに取り組むことによって、課題解決への貢献の幅が広がり、かつスピードがあがると思っています。

### TOPICS

#### 鶏卵の持続可能な調達

当社グループでは、「良い商品は、良い原料からしか生まれぬ」という強いこだわりを持っています。しかし、「良い原料」とは、安全・安心はもちろん、環境や人権に与える影響にも配慮した原料である必要があります。2021年からは「持続可能な調達」をサステナビリティ重点課題に加え、特に鶏卵の調達においては、アニマルウェルフェア向上をめざし取り組んでいます。平飼いなどのケージフリー飼養による鶏卵活用や卵代替などお客様のニーズ・価格受容性を把握しながら商品開発を進めています。

#### 再生プラスチックの利用

プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。当社グループでは、プラスチックごみの流出を、生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、石油由来プラスチック使用削減の取り組みを進めています。キューピー ティスティドレッシングなどには再生プラスチックを含む容器を使用しています。また、他社との協働などを通じて、グループで排出するプラスチックを再利用する、循環プロセスの構築も検討しています(参照:P.27)。

#### 食を通じた子どもへの支援

食を取り巻く社会課題解決に向き合い貢献するため、2017年に「キューピーみらいたまご財団」を設立しました。食育活動や子ども食堂を通じた子どもの居場所づくりに取り組む団体への助成活動や、企業からの寄贈品を届けるMOWLS<sup>®</sup>を活用し、誰もが食事を得られる環境づくりを進めています。志を同じくする団体との協働により、長期在庫商品を活用することで、食品ロスを低減していきます。

※MOWLS:一般社団法人全国食支援活動協力が立ち上げたロジスティックシステム